

摂食機能訓練法

講 師	藤 宣 好	実施時期 単 位 数	第 2 学年前・後期 2 単位 (30 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識、技術および態度を修得する。				
授 業 概 要	摂食・嚥下障害の概要と摂食機能訓練法の基礎を教授する。リハビリテーションの意義、目的を充分理解し、臨床の場で、生かせる技術と知識を修得していく。				
学 習 方 法	講義・実習				
成績評価の方法	定期試験、レポート、出席状況等の総合評価 筆記試験70% レポート、研修会出席状況30%				
教 科 書	「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション」第2版 医歯薬出版				
履修上の注意	現在、「口腔ケア」として脚光を浴びている科目です。口腔領域の疾病に携わる医療従事者として、口腔領域の障害についても関わって行く必要があります。授業内容の予習、復習をして授業に臨み、総括的な理解をしてほしい。				
参 考 書					
教員の職務経験 (科目との関連性)	施設在宅病院等への訪問診療を行ってきた経験から、高齢者への摂食嚥下の取り組みを行ってきたその経験を活かし、講義、実習を行う。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	オリエンテーション 歯科衛生士と摂食嚥下リハビリテーション	摂食嚥下とは何かの理解を高める。
2	リハビリテーションと摂食嚥下リハビリテーション	リハビリテーションと摂食嚥下リハビリテーションを理解する。
3	摂食嚥下障害者への口腔管理と制度と理解	摂食嚥下障害者への口腔管理と制度を理解する。
4	摂食嚥下機能のメカニズム 摂食嚥下に関わる構造(解剖)	摂食嚥下機能のメカニズム(解剖)を理解する。
5	摂食嚥下機能のメカニズム 摂食嚥下に関わる機能(生理)	摂食嚥下機能のメカニズム(生理)を理解する。
6	咬合および咀嚼機能の管理と評価	咬合および咀嚼機能の管理と評価を理解する。
7	リスクマネジメント	リスクマネジメントを理解する。
8	病態別摂食嚥下障害 (成人期・老年期の疾患)	病態別摂食嚥下障害(成人期・老年期の疾患)を理解する。
9	摂食嚥下の評価 (成人期・精密検査)	摂食嚥下の評価(成人期・精密検査)を理解する。
10	摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理	摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理を理解する。
11	前半のおさらい	前半のおさらい
12	摂食嚥下訓練(間接訓練)	摂食嚥下訓練(間接訓練)を理解する。
13	摂食嚥下訓練(直接訓練)	摂食嚥下訓練(直接訓練)を理解する。
14 15	摂食嚥下訓練実習	摂食嚥下訓練実習